



イケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 618 回 「変わらない」「変えない」人への対処法

2015.3.1

例えば「職人」というスペシャリストがいる。

自ら身につけた熟練した技術によって、手作業で物を作り出すことを職業とする人のことである。彼らは何度言ってもそのやり方を基本的に変えることはない。

それは、そうすることがベストであると知っているからだ。物づくりを通じて、己が感性を精一杯働かせてゆくものであり、自己満足に終らぬよう工夫に努め、心身を忘れる程に真心を尽くしてゆくのが「職人芸」で、変わってはいけないのかもしれない。

変わらないという意味では職人のようで、実は職人でない、「エセ職人」という人がいる。

エセ(似非)とは、似てはいるが本物ではない、偽物であるの意を表す言葉である。

変わらない点だけが職人と同じだが、その中身が全く違うので「エセ」である。

言われた事はこなすが、自分の手法に固執し、臨機応変力がない。

問題の軽重の判断が付かず、融通が効かないタイプのこと。

より効果的、効率的に仕事をこなすには、変えた方がよいというアドバイスには「はい」と素直に答えるが、次回もまた、同じことを繰り返す。

良い意味でも悪い意味でも頑固者で、変えることを「良し」としない性格である。

こうしたタイプの発生原因は、本人の先天的性格に負う所が大きい。

そもそも色々なチャレンジをしないタイプが多いが、仮にチャレンジする機会があったとしても、まず、能動的に動くことをしない。

自己陶醉型で見栄っ張り、結果、人生においてもビジネスにおいても、新たな世界が中々開かない。実年齢ではなく精神的年齢が「老化」する、さびしい人かもしれない。

性格と言われれば仕方がないが、仕事は性格でするものではない。

でも、変化を受動しないビジネスシーンは、上司が、本人の欠点と決めつけてしまい、十分な訓練をされない場合が多いかもしれない。

本人の性格だけが原因でない、変化を拒むミスマッチがどこかにあるかも知れない。

こうしたタイプの改善策は、なんと言っても「訓練とエクササイズ」、変化への対応の重要性、必然性を徹底的に教え込むことに尽きる。自分で納得しない限り行動しないタイプだから、実行動を通して、成功体験を理解させることが重要である。

具体的には、まず、ルーチンワークを担当させ、多量の仕事を迅速に、正確に処理させる。ゲームやスポーツ、懇親機会等でリフレッシュさせ、気持ちの切替えを繰り返し、懲りずに訓練する。そして最後は社外訓練に参加させ、他流試合で、自分の独善を根底から破壊させることかもしれない。少しハードで長期的な処方箋が必要となるだろう。